

「葛飾柴又の文化的景観」ニュース

江戸の人々を癒した「葛飾柴又」の旅

各地を旅した江戸の人々ですが、今も昔も容易に遠出できるものではありません。そんな中、日常の喧騒を離れて非日常の時間を堪能できつつ、日帰りで訪れることができた柴又は、魅力的な近隣観光(マイクロツーリズム)の地でした。今回は江戸の人々が歩いた2本の帝釈道(たいしゃくみち)を辿り、当時の旅人が見た風景に思いを馳せてみたいと思います。

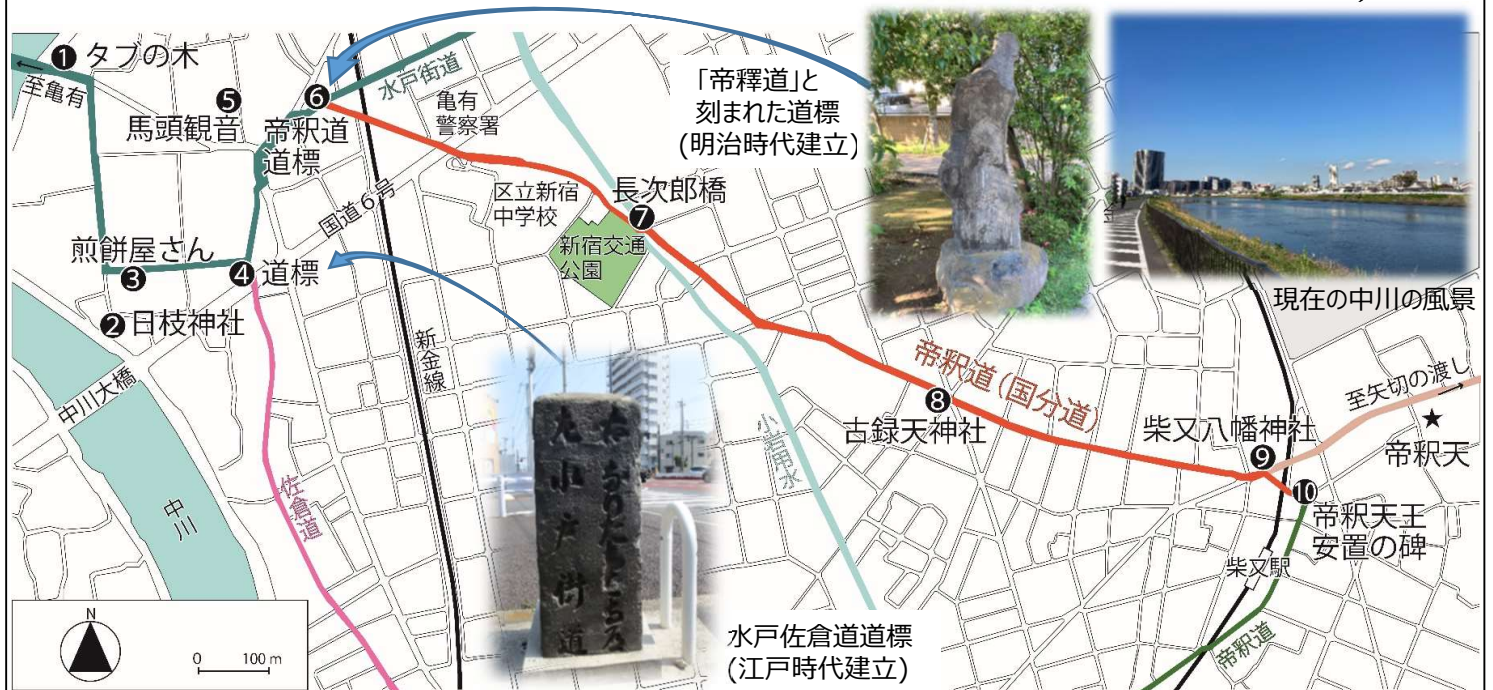
◆ 2本の帝釈道 ～上手道(かみてみち)～

上手道は、新宿(にいじゅく)で水戸街道から分岐して柴又に至る道です。「国分道」として下総国府(市川市)に至る要路で、帝釈天詣の流行以降、「帝釈道」とも呼ばれました。江戸から上手道で柴又に行く場合、日光街道を千住宿(足立区)まで北上し、そこから水戸街道で亀有に入ります。道上小学校東の交差点付近にある一里塚跡は日本橋から三里(約12km)、日本橋から徒歩で概ね3時間の地点です。さらに東に進むと「旧水戸街道 亀有上宿」と書かれた石碑があり、やがて中川が見えてきます。「新宿の渡し」で渡河した中川は、兩岸の木々、旅籠、渡し舟、帆掛け船、遠くに臨む筑波山が浮世絵に描かれ、川魚が美味だと記された風光明媚な地でした。現在、中川橋東詰にある旅人の道標であったタブの木のモニュメントと植樹されたタブの若木①が当時の風景を今に伝えています。

東岸の新宿は戦国期以来の宿場で、江戸時代には千住宿と松戸宿の中間駅でした。有事の際に見通しが利かないよう折れ曲がった道路の形が残り、道筋には日枝神社②と煎餅屋さん③(店主は5代目とのこと)があります。国道6号と合流する所に道標④があり、ここで水戸街道と佐倉道に分岐します。左の水戸街道は金町・松戸・水戸、右の佐倉道は小岩・市川・成田山に繋がります。柴又是左折です。近くには人や荷物を運ぶ役割を担った馬等を供養した馬頭観音⑤が祀られています。程なく「帝釈道」と刻まれた道標⑥が見えてきます。帝釈天題経寺の寺紋と指差しマークが刻まれ、指の差す方向が上手道です。ここから帝釈天参道の入口まで2km弱。柴又が近づいてきました。国道6号を横断して新宿交通公園付近で小岩用水と交差します。「長次郎橋」⑦の橋名板が残っています。古録天神社⑧を右手に見ながら進むと、柴又の鎮守八幡神社⑨の鳥居が見えてきます。ここで左に進むと江戸川の「矢切の渡し」で渡河して下総に繋がる国分道、今は道はありませんが直進すると「帝釈天安置の碑」⑩。この碑が帝釈天題経寺参道の入口を示し、柴又到着を教えてください。亀有の一里塚から3km強、時間にして1時間程の旅でした。(※2本の帝釈道を上手道・下手道と表記 ※新宿は葛飾区新宿 ※水戸街道・日光街道は江戸時代の街道、現在の水戸街道は国道6号と表記)



歌川広重『名所江戸百景』
「にい宿の渡し」(国立国会図書館蔵)



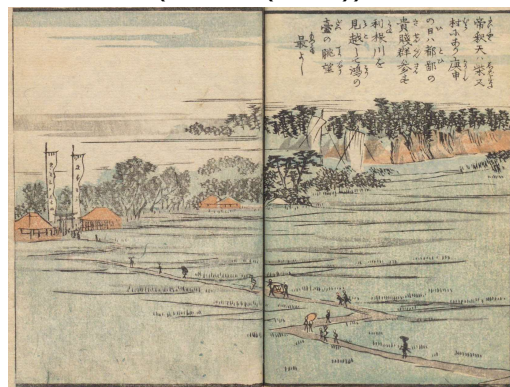
◆ 2本の帝釈道 ～下手道(しもてみち)～

下手道は立石道から分岐した道で、分岐点に立つ「帝釈天王」と刻まれた道標①がその始まりを教えてください。道標を北上すると、右手に立石様②のある立石児童遊園があります。立石の地名の由来になったといわれる立石様は、古くから神秘的な奇石として畏敬の対象でした。立石様を過ぎて左手にある宝泉寺③(慶長17年(1612)創建)には4基の馬頭観音が祀られています。住宅が立ち並ぶ細い道を進み、中川は「諏訪野の渡し」で渡河しました。現在の整備された河岸は中川の風景と東京スカイツリー®を臨むビュースポットですが、『江戸名所図会』にも南蔵院や熊野神社と共に蛇行した中川が描かれ、当時の人々も「七曲り」の景を愛でたことが伺えます。諏訪野の鎮守として勧請したと伝わる八幡神社④を過ぎ、中川沿いを北上します。新中川ができる前は新中川通水記念公園⑤の辺りから大光明寺⑥(旧極楽寺)の方向に陸路で進み、帝釈道は帝釈枝道と合流しました。

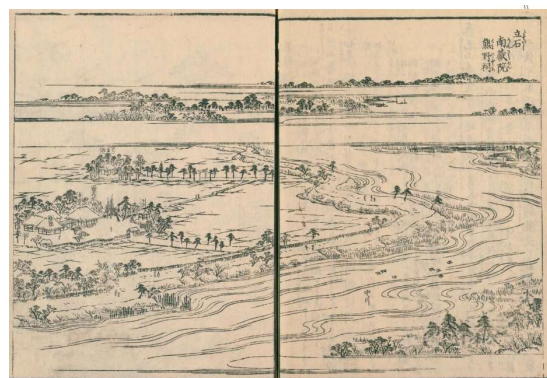
次に帝釈枝道を辿ります。先の「帝釈天王」道標①を中川沿いに進むと、南蔵院⑦と地蔵菩薩⑧(安永3年(1774)建立)があります。地蔵菩薩を北上し、立石道から分岐した道が帝釈枝道です。分岐点近くにある熊野神社⑨を過ぎて再び中川沿いを進むと、途中の福森稲荷神社⑩の境内に「帝釈天王通」の道標があります。道標には上矢切村・柴又村の他、江戸の橋町陀羅尼講中・本所割下水講中等、寄進者の名が刻まれ、帝釈天信仰の江戸市中への広がりが分かります。その後、高砂橋の辺りで対岸へ渡り本道と合流します。高砂橋の完成(昭和7年(1932))以前は「曲金の渡し」がありました。高砂駅脇の踏切を過ぎると、帝釈道は水戸街道から分岐した佐倉道と出会い、程なく小岩用水と交差します。交差する場所に架けられていた橋は「筋違橋」⑪です。そこから京成金町線に沿って進み、踏切を渡ると柴又駅前の商店街です。柴又駅を左に見ながら進むと「帝釈天安置の碑」⑫が見えてきます。ここで上手道と合流します。「帝釈天王」道標①から約5km、時間にして概ね1時間半の旅でした。

◆江戸から柴又の距離感

昔も今も多くの人々が訪れる柴又。そこには、江戸川の雄大な自然や道中の豊かな景色、帝釈天題経寺の信仰、草団子や川魚料理等の名物がありました。その道のりは日帰り旅行という手軽な旅路であっただけでなく、世界有数の大都市江戸の暮らしのストレスを忘れさせてくれる癒しの旅路だったのです。江戸時代の『絵本江戸土産』には、江戸川に浮かぶ帆掛け船と国府台の崖線を臨む帝釈天周辺の広々とした風景が印象的に描かれ、それら要素が人々を癒したことが伺えます。江戸の人々が歩いた帝釈道の記憶を今に伝える石造物・寺社・曲り角。当時の旅に思いを馳せながら、葛飾柴又を訪ねてみるのも楽しいかもしれません。



「帝釈天」『絵本江戸土産』(国立公文書館蔵)
庚申の日に帝釈天を目指して歩く人々の様子が描かれています。



「立石 南蔵院 熊野祠」『江戸名所図会』
(国立国会図書館蔵) 南蔵院と熊野神社、蛇行した中川の流路に沿って道が整備され、周辺には豊かな河川風景が広がっています。



「帝釈天王通」の道標
(安政3年(1856)年銘)

「帝釈天王」と
刻まれた道標
(文政3年
(1820)建立)

葛飾柴又の魅力を伝える ～かつしか語り隊インタビュー～

来訪者に葛飾柴又の魅力を伝えて頂いているボランティアガイド「かつしか語り隊」は、今年、設立20周年。土曜・日曜に柴又駅前に立ち、無料でガイドをされている同会の皆様にお話をお伺いしました。

渡邊朗子氏 ボランティア養成講座(以下「講座」)の2期生です。ガイドを始めて19年。仕事と子育てが終わり、何をしようか考えていた時、広報かつしかで講座を知りました。語り隊でご案内したお客様が1万人を達成した平成19年には、1万人目のお客様のガイドを務めさせて頂きました。お客様を駅でお迎えし、寅さんとさくらさん像の説明後、参道から帝釈天まで歩きます。お時間のある方は山本亭や寅さん記念館、矢切の渡しもご案内します。時間は大体2時間。新幹線や飛行機の出発時間迄の隙間時間にお越し頂き、あまり時間がないという方にも工夫して対応しています。お客様の希望の場所にご案内することもあります。数年前、浅間山噴火の犠牲者の供養碑が見たいという方を帝釈天の墓苑にご案内しました。その方は、ご子息の大学の卒業式と夜のライブの隙間時間にお越し頂き、退職したので供養碑に行って報告したいことがあるとのことでした。柴又で今も行われている川施餓鬼のご説明をしたら、涙を流して手を合わせていらっしゃいました。



渡邊氏 鈴木氏

鈴木正勝氏 私はボランティア養成講座4期生。語り隊に参加して16年です。それまで区外で仕事をしてきましたので、定年になり、自分は葛飾区のことを何も知らないかと、また、少しでも地域の役に立てることはないかと考え、講座に応募しました。柴又に来られるお客様は関東近県や都内の方が多く、目的を持って来られるというより、ちょっと街をぶらぶら散策したいという方が多いですね。午前中はスカイツリーを見て、午後は柴又観光という方も多いです。お客様からは「参道の雰囲気が良い」「ゆったりとしていて気持ちのどかになる」等の感想を頂いています。私自身も参道のまちなみがとても好きです。ガイドの際は、どんな目的で柴又にいらしたのかを最初にお伺いするようにしています。私達も柴又のことを色々勉強しているので、ついついたくさんお話したくなってしまうのですが、お客様に楽しんで頂けるご案内ができるよう気を付けています。ガイド後に「ありがとうございました。とても楽しかった。」と言って頂ける時が一番嬉しいです。



青木憲一会長 「かつしか語り隊」の設立は、区の高齢者支援課がシニアの生きがいづくりや 20周年記念グッズ社会貢献を目的に始めた講座がきっかけです。語り隊がご案内したお客様はもうすぐ延べ7万人になります。達成時には何かイベントができたかと考えています。新型コロナが落ち着き、外国人のお客様も増えてきました。以前、外国人の方をご案内したメンバーによると、柴又のまちなみにノスタルジーを感じるという感想を頂いたそうです。外国の方にもどこか懐かしい印象を与える柴又のまちなみがこれからも変わらないでほしいと思います。今後は、都内で初めて国の重要文化的景観に選定された柴又の魅力を区内の小学生等にも伝えていけたらと考えています。

取材後記 お話にあった「午前中はスカイツリー、午後は柴又観光」「新幹線や飛行機の出発時間までの隙間時間にお越し頂き」といったキーワード。江戸の人々が日帰りで訪れることができた行楽地・柴又は、交通の発達に伴って大幅に短縮しましたが、都心部から、あるいは、成田空港や羽田空港、東京駅や上野駅と気軽に行き来できるその“距離感”が、昔も今も多くの方を惹きつける重要な要素になっていることが見えてきます。同時に、いにしえより、水陸交通の結節点として多くの人や物、文化が行き交い、発展を遂げてきた柴又の歴史の深さを改めて感じたお話でした。

柴又の春の風景～お稚児さんの練り歩き～

4月8日、綺麗に着飾ったお稚児さんがお花を持って練り歩き、子どもの健康と成長を祈念する帝釈天題経寺の行事「花まつり稚児音楽練供養」が行われました。帝釈堂での読経後、天童総代を務めたお稚児さんが、難しい言葉が多い長文の祭文を見事に読み上げました。

お稚児さんの一人は「初めてけどあまり緊張していません。でも、頭の飾りが重いです。」と話してくれました。



柴又の人々の思い～7・8月の行事～

7月23日(火)に第58回葛飾納涼花火大会、8月17日(土)に帝釈天題経寺の川施餓鬼という江戸川を舞台とした2つの行事が行われます。多くの犠牲をもたらした享保17年(1732)の大飢饉やコレラの流行。江戸幕府は、隅田川の川開きに合わせて慰霊と悪病退散を祈る祭礼とともに川施餓鬼を執り行い、花火を打ち上げたといわれています。これらの行事は次第に江戸の人々が「生」を感じる装置へと変わっていきます。柴又の川施餓鬼は、天明3年(1783)の浅間山大噴火の犠牲者が江戸川岸に流れ着いたことがきっかけとなっています。柴又の人々が大切にしてきた行事の背景には、災禍で命を落とした人々の鎮魂と邪気浄化、そして、平穏な暮らしへの願いが込められているのです。



柴又の龍を探して ～開運散歩のススメ～

令和6年は辰年、十二支獣は龍です。龍は想像上の生き物で、体は大蛇に似て、背に81枚の鱗、四足に5本の指、頭には2本の角があり、長い髭を持ちます。江戸川に面し、水と深く関わってきた柴又は龍との縁も深く、至る所で龍を見つけることができます。

帝釈天題経寺にはたくさんの龍の彫刻があります。手水舎の柱の上には金色の目をした龍の彫刻があり、その迫力を間近に感じられます。二天門や大鐘楼等でも見つけることができます。本堂(祖師堂)・帝釈堂・開山堂ではお堂の正面、帝釈堂では特に多くの龍を見つけられます。正面入口の柱の上にある大きな龍は、両脇の唐獅子の彫刻と共に参拝客を出迎えてくれます。見逃さないのが龍の水墨画です。帝釈堂拝殿を奥まで進み、中陣の天井を仰ぎ見ると、一面に狩野派の作といわれる巨大な龍の水墨画が描かれています。また、境内には「瑞龍のマツ」があります。その名の通り、伸びやかな枝振りはまさに天に昇る龍の如くです。



葛飾区指定無形民俗文化財
「柴又八幡神社の神獅子」



東京都指定天然記念物「瑞龍のマツ」



帝釈堂を飾る龍の彫刻

柴又八幡神社には神獅子舞の神事があります。江戸川の水害に悩まされていた柴又の人々が水害除けを願って舞われたといわれ、同様の文化が荒川・古利根川流域の群馬県、埼玉県等にもあります。この獅子は、水神の使いで、河川などの水に宿るとされた龍に見立てたものといわれ、獅子舞(龍の崇拜)によって、柴又を水害から守ろうとしたものです。

そして、柴又名物の鯉料理。中国に登竜門という故事があり、急流の滝を登った鯉が龍に化身する鯉の滝登りは、立身出世の願いを込めて節句ののぼり旗などにも描かれます。

辰年の今年、開運の願いを込めながら「龍」を探してみよう。柴又のまち歩きはいかがでしょう。



重要な構成要素「ゑびす家」
川魚御膳



重要な構成要素「川千家」
参道に面して設えられた鯉の生簀

ご注意ください

「葛飾柴又の文化的景観」の選定範囲内で工事等を行う際、協議や届出等が必要な場合があります。

- **柴又まちなみ景観ガイドライン**（特定非営利活動法人柴又まちなみ協議会）
柴又6丁目の一部・7丁目の一部において建築・改修等工事を行う場合
- **葛飾区景観地区条例等**（葛飾区都市計画課）
柴又地域景観地区内で建築物や工作物の新築、新設、外観の変更等を行う場合
- **重要文化的景観に係る選定及び届出等に関する規則**（葛飾区生涯学習課）
重要な構成要素がき損した場合や工事等を行う場合



(消費者庁イラスト集より)

【お問合せはコチラ】

葛飾区生涯学習課文化的景観係
〒124-8555 葛飾区立石5-13-1
TEL 03-5654-8477
FAX 03-5698-1541

「文化的景観ニュース」のバックナンバーのほか「葛飾柴又の文化的景観整備計画」や「文化的景観パンフレット」をご覧ください。

